

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770500361		
法人名	医療法人社団 慈泉会		
事業所名	グループホーム ひもろぎの園(2階ユニット)		
所在地	福島県白河市関辺川前88		
自己評価作成日	平成23年12月24日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/infomationPublic.do?JCD=0770500361&amp;SCD=320">http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/infomationPublic.do?JCD=0770500361&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

活動的な入居者が多くおり、入居者それぞれの希望や要望を伺いながら、日々の生活の中にそれを取り入れられるよう工夫している。また、自分の希望や要望がなかなか表出できない場合でも、入居者に親密に寄り添うことによって、ご本人の心の内を知る工夫を心掛けている。また、日常の生活においては、それぞれの心身の状況を職員全員が踏まえながら、入居者にできるだけ多くの事をお手伝い頂いたり、一緒に余暇や行事を楽しむことができよう個別の支援行ってそれぞれに合った活動を多く促している。ご家族へは、毎月の手紙や面会等を利用し入居者の状況を常に把握しておいて頂けるように努めている。それによって、いつも傍にいないともズームズに入居者と関わることができる。一方、地域に住む近隣の方達とも、できるだけ多く関わる機会をもつように努力している。小学校運動会、夏祭

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービス事業者である事を念頭において、職員同士で話し合いホームの理念を作っている。また、日頃の生活の中でも、理念に沿ったサービス提供ができるよう、常に職員間で話し合いを持ちながら入居者の生活支援に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人全体で行う行事(花火大会、秋祭り等)では、地域の方々に自由に参加して頂いている。また、定期的に広報紙「ひもろぎ通信」を発行しホームへの理解を深めて頂くと同時に、夏祭り等の地域行事にも参加させて頂いている。		
3		○事業所の方を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学校の運動会、夏祭り等に入居者と一緒に参加したり、施設防災訓練に地域の方々に出席して頂く事により、ホームで暮らす入居者を知って頂く機会を設ける。また、広報誌の発行により認知症等への理解を深めて頂けるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、市担当課長、地域包括センター職員、地域代表者、家族会代表者に委員となって頂き、定期的に会議を開催している。会議では、入居者の状況やホームので行事を写真等で具体的に紹介し、各委員に意見を求めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議委員として、担当課長に毎回会議に参加して頂いている。また、地震や豪雨等の災害時には担当課と連絡を取りあったり、市担当課の要請に協力する(被災者受入れ)等、相互に協力できる関係作りを行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	隣接する介護老人保健施設と協力して勉強会を開催したり、ホーム内でも職員間で勉強会を催す等して、身体拘束とは何かを職員それぞれに考えながら、身体拘束をしない取り組みを行っている。また、ホームへの出入りについても、見守りにより日中は自由に行える。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待に関する勉強会を毎年ホーム内で開催し、高齢者虐待に関する理解と知識を深める努力をしている。日頃は、全体ミーティングやカンファレンスを通して職員間で話し合い、虐待が見過ごされないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	県主催の認知症実践者研修に職員を出席させる等、関係する研修会への参加により制度への理解を深められるよう取組みを行っている。また、成年後見人制度を利用されている入居者もあり、日々の生活の中でも理解する努力をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申し込み時、入居前、入居日等、できるだけ多く契約やその内容について、説明する機会を設けている。それにより、疑問点や不安な事がある場合の解消とホーム利用にあたっての理解を深めて頂く努力をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回家族会を開催し、職員と家族が相互に懇親を図り理解を深められる関係を築いている。家族会総会において、ホームの事業報告や年間の行事計画を報告し家族との意見交換を行っている。家族会提案の「ひやりはつと用紙」を設置		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回開催している全体ミーティングや申し送りを利用し、ホーム運営に関わる職員の意見や要望を聞く機会を設けている。法人全体に関わる問題は、管理者が参加する主任者会議で話し合いあう事により意見を反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の生活環境を考え、雇用形態はパート職等も採用しながら柔軟に取り組んでいる。また、休日や夜勤等については、ある程度各職員の都合や希望に配慮しながら、家庭と仕事が両立できるような勤務体制をとっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、ホーム内で勉強会を開催し職員の知識の向上と技術の習得に努めている。また、グループホーム連絡協議会が開催する講習会を中心に、職員が外部講習会へ参加する機会を出来るだけ多く取れるように配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県、県南地域グループホーム連絡協議会への総会、会議、研修会等への出席により同業者との交流や情報交換を行っている。また、ホーム職員が県南地区の研修委員を務め、同業者間での交流や全体の質の向上を目指す支援もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活圏を踏まえ、現状のご家族やご本人の思いや悩みなどを聞き、安心して生活できるよう話し合い支援している。いつでも不安や悩みを話せるような関係作りに努め、職員間でそれを共有し統一したサービスができるよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前や入居時に、ご家族の要望や不安に思っている事、今までの本人との関わり、周りの状況等の情報を集め職員間で共有のものとし、それに沿ったケアを提供する事で家族との関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に自宅訪問し、ご本人やご家族へこれまでの生活状況、家族関係、現在困っている事、必要としている事など確認した上で、入居して頂いている。必要に応じ、他のサービスの利用の提案や説明も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活パートナーとして、会話や表情などで変化に気づけるよう入居者一人ひとりの気持ちや想いに寄り添って生活している。また、日々の生活の中でも暮らしの知恵などを教えていただきながら生活を共にし、信頼関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族の思いを定期的に確認しながら、良好な関係が築けるよう取り組んでいる。毎月の手紙、面会、電話連絡等で状況を報告し、時にはケアの内容についても相談し意見を求めたりと一緒にご本人を支えていけるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に利用しているホームセンターや商店等へは、ご本人の希望があれば何時でも行くことができるように努めている。また、お友達やご親戚の方が来た際などには、お茶などを出して話しやすい環境づくりに努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者一人一人の個性を把握しながら、それぞれが穏やかに生活できるよう、職員からの声掛けを行ったり、居場所等の工夫をしている。気の合う入居者通しが和やかに生活していけるよう、例えば、食事席等の工夫も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居の際には、ご家族や次の施設に向けて情報交換を行う等をしている。また、退居の際にはこれからもホームに訪れて頂く事ができるよう、説明を行っている。退居後も、機会があれば面会に出向く等の活動もしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望や思いを傾聴し、思いに添えるよう努めている。言葉でいえない時には表情や行動を観察し入居者の思いを汲み取りながら支援している。必要時は全体ミーティングやカンファレンスでの話し合いで検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前や入居時に調査を行い、アセスメントシートを作成し入居者の今までの暮らしをまとめている。また、ご本人との会話の中や、ご家族の面会時に馴染みの暮らし方や生活環境などを聞くようにスタッフ間で心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活状態を見ながら、好きな事や得意な事、やってみようと思えるように支援している。継続的に取り組むべき事や全体として共有すべき事は申し送りやフロアミーティングを活用し、継続的に支援できるよう対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中から、ご本人の意向や希望を職員が把握するように努めている。それを申し送りやカンファレンスによって把握し、モニタリングとしてまとめケアプランに反映させている。また、ご家族の面会時や電話などで情報交換を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づいたことや問題点などはケース記録へその都度記録として残し、すぐに対処が必要な場合にはカンファレンスで話し合い結果をケース記録へ残す。加えて、申し送りやミーティングを通し職員全員に周知できるよう配慮している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	隣接する介護老人保健施設の看護師、管理栄養士等の意見も参考にして問題解決に努めている。また、病院からの退院や外出の際等はご家族と相談しながら行い、ホームとご家族の役割を話し合い入居者の支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の地域代表者としての参加、回覧板や行事への招待等を通して交流を行うことで、地域の一員として入居者を支えてもらう努力をしている。地域の役員、消防団、小学校等を通して、地域資源を把握しつつ交流を深めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望や要望を踏まえ、受診を行っている。受診後は、ご家族へ受診内容等について報告を行い、ご家族が入居者の状態を常に把握できるように対応している。他科への受診は、必ずかかりつけ医へ報告している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身体状況や日常生活に変化が見られた場合には職員間で話し合いを持ち、担当の看護師に相談し助言や必要に応じたアドバイスをもらい対応している。また、病院受診を行った際には、必ず担当の看護師にその詳細を伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には安心して治療を受けられるよう、ご家族、かかりつけ医、医療機関の関係者と密に情報交換を行い、ご本人、ご家族の不安を軽減するように努めている。また、既往歴や内服薬等が直ぐにわかるように、入居者それぞれに「連携シート」を作成している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人やご家族の意向を確認しながら、かかりつけ医、担当の看護師と連携し、ご家族やご本人、職員で話し合いを持ちながら対応している。また、話し合いの内容やご家族等の意向はケアプランに反映し、職員全員が周知し生活支援を行えるようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム独りで、定期的に避難訓練や急変時の訓練を行っている。他に年2回隣接する介護老人保健施設と合同で防災訓練を大規模に実施している。その際、心肺蘇生法や消火器等の取扱いについても消防署職員より学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練や急変時訓練を行い、非常時に適切に行動できるように取組みを行っている。防災訓練時には、地域の人達や入居者も参加し、職員以外にも適切な支援や避難ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者それぞれの個性や性格を理解しながら、入居者個々の心身の状況にあった声掛けを行うよう心掛けている。会話の際の口調や雰囲気、態度に配慮して、誇りやプライバシーを不要に傷つけないようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者に何かして頂く場合には、必ずご本人の意向を確認しながらお願いしたり、洋服を選んで頂く場合などは、必ず選択肢を設け希望に沿ったものを選んで頂けるように常に配慮している。食事等も、メニュー入居者の意向を生かしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースに合わせ生活して頂けるよう、日課を調整しながら毎日を生活している。余暇時間の過ごし方、季節の行事への参加についても、自己決定を大切に、ご本人に確認し参加している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者それぞれの生活習慣に配慮しながら、お化粧品をそろえたり、余暇時間にマニキュア等を楽しむ事等も行っている。女性は女性らしさ、男性は男性らしさを保っていただけるよう支援している。着る服も出来るだけ自分で選んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	積極的に買い物や食事作り等は入居者にもお願いし、入居者自身に作ってもらうことで食事の楽しみを膨らませる事ができるように努めている。また、入居者の好みに応じてメニューを変えたり、入居者の出身地の食事を取り入れたり等している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の管理が必要な入居者については、個別に食事量の記録を行ったり、水分摂取量の管理を行っている。また、それぞれに飲み物は好きな時間に好きな物が飲めるような工夫も行っている。栄養補助食品等も必要に応じ使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者それぞれに応じた支援を行っている。かかりつけの歯科医師と相談し、歯ブラシ以外に歯間ブラシを用いたり、液体歯磨き等も使用し、身体状況に応じて歯磨きの方法を工夫し、毎日の口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつの使用はできるだけ控え、日中はリハビリパンツか綿パンツの使用に心掛けています。パッドも種類も多く使用し、入居者それぞれにあった支援ができるよう職員間で話し合いながら運用しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為、排便ナツツ表を用いて入居者それぞれの排便状況の把握に努めている。また、下剤を使用する場合も、服薬時間等を工夫しスムーズに排便が行えるよう配慮している。食事でも繊維質の物や水分を多くとる等の工夫を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴ナツツ表等を活用し、全員が定期的に入浴できるよう支援している。また、入居者それぞれの希望を伺いながら、それぞれの希望に応じた入浴ができるよう心掛けている。時には、ご家族が入浴介助をして下さる場合もある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく白中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。また、一人ひとりの体調や表情、希望を考慮し、ゆっくり休憩が取れるよう支援している。寝付けないときは話をしたり、温かい飲み物を飲んでいただいたり工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者毎に、服薬についてのファイルを作り、職員はいつでも確認出来るようにしている。処方の変更があった時には、ケース記録や申し送りで変更の要点を説明し、職員間で情報が共有されるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの役割を大切に、毎日が張り合いのある生活になるよう努めている。ホーム内での生活だけにならないよう、外との交流を取り入れながら、上手く気分転換を行ったり、趣味活動に打ち込んだりと、個々の活動をサポートしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の希望や声掛けにより、その時々要望を聞き入れてながら、自由に買い物や自宅へ行けるように、職員同士で時間を調節し同行して対応している。必要に応じてご家族と相談し、自宅への外出や結婚式等にも出席できる環境の形成に努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者それぞれにお小遣いとして、ホームでお金(財布)を保管している。外出や買い物の際には、各自の財布をもっていき、職員が見守りながら品物や好きな食べ物を買った際に財布を手渡し支払をそれぞれにお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や知人からの贈り物があつた際などには、入居者自らが電話をして頂いたり、季節季節で皆で葉書を書くなどしてご家族や知人とのやりとりをしている。また、入居者ご本人からの申し出により、いつでも電話はできるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には長椅子を置いて外出し易い様にした。ベランダにはベンチがあり日光浴なども楽しめるように配慮している。また、季節それぞれにプランターで花を育てたり、オープンキッチンでの食事づくり等、季節感や日常の生活感を失わずに生活できる環境づくりや設備配置に努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを配置したり、コタツで過ごすスペースを作ったりと、それぞれの生活習慣や個性に合わせて過ごすことができるよう、多彩な住環境を取り入れている。余暇時間には、思い思いの場所で過ごすことができるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、自宅で使い慣れたタンス等の家具を持参して頂き、住み慣れた場所と同じ雰囲気となるように配慮している。また、居室やドア付近には飾り物や花等を置くことにより安心、安定した生活空間となるように心掛けています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者それぞれの行動を理解し、それに基づいて家具や物品の配置を変える等により、入居者が安全で安心して生活できるようにしている。例えば、転倒予防の為、食堂のテーブルの配置を工夫し移動時につかまり易くしている。		